

アジア地域ビジネス論 A		教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	23200201

1. 授業のねらい・概要

世界経済の中核にまで発展を遂げてきたアジア経済におけるビジネスを特徴づけるものはなにかをクローズアップするのがねらいである。アジアにおけるビジネスモデルの抽出を目指す。また、アジアにおけるビジネスの特異点にも着目する。これによって、アジアのこれまでの発展はもとより、今後の可能性と課題についても取り上げる。

2. 授業の進め方

各項目について、具体的かつ理論的にアプローチする。そのため、具体的事例をできるだけ多く取り上げていく。また受講生によるレポート作成等によって、より関心のあるビジネスについての考察を深めることを目指す。説明については、配布資料の講読、板書を重視する。また、授業中の積極的な意見発表も歓迎する。

3. 授業計画

1. イントロダクション（授業の進め方と授業の概説）	9. 「中所得国の罠」と産業構造
2. アジアの発展とは①（東アジアの奇跡）	10. アジア経済における資金フロー
3. アジアの発展とは②（中国の台頭）	11. アジアにおける金融ビジネスと先進国経済
4. アジアの労働力と人口問題	12. アジアの金融危機
5. 域内貿易とグローバル・バリューチェーン	13. アジアのビジネスと都市化
6. アジアにおけるグローバルビジネスの新展開	14. アジアビジネスの展望と課題
7. 南アジアにおける新興産業ビジネス	15. 総括と期末試験について
8. アジアのイノベーション	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

宿題によって、予習を促す。また、より深い考察のためにレポート作成も課題とする。こうしたことから、予習は1～2時間、復習としてのレポートを仕上げるには、日々1時間以上の学修は必要であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期中に行う課題は、出来得る限り次の授業で解説を行う。期末試験等の質問については適宜対応する。

6. 授業における学修の到達目標

アジア地域のビジネスを通して、経済発展に必要なビジネスモデルを実践的学修する。これによって経済学の視点を有するビジネスマンとしての基礎力を自らのものにすることを到達目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業における積極的な発言・課題提出（10%）、レポート（20%）、期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に限定しない。参考文献は、遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太[編]（2018）『現代アジア経済論 「アジアの世紀」を学ぶ』（有斐閣ブックス、2700 円+税）、猪木武徳（2009）『戦後世界経済史 自由と平等の視点から』（中公新書、940 円+税）

9. 受講上の留意事項

2 年次後期の「アジア地域ビジネス論 B」と合わせて履修することが望まし。また、1 年次の「グローバル化と国際社会 A・B」及び 1 年次後期の「日本とアジアの経済」を履修しておくことが望ましい。